

■ 『IT NEWS LETTER』 2026年4月号

～ ITの分からないことも、まずは一歩から ～

(1) 2026年、AIは「使うもの」から「任せるもの」へ

ここ1～2年で、AIの進化は一気に加速しています。

これまでのような文章作成や要約といった補助的な使い方にとどまらず、現在では「業務そのものを実行する」段階に入りつつあります。

例えば、

- ・ 資料作成や議事録の自動生成
- ・ 問い合わせ対応の自動化
- ・ データ分析や意思決定の支援
- ・ 定型業務の効率化や自動処理

など、AIが“人の作業を肩代わりする”ケースが急速に増えてきました。



この流れは一過性のものではなく、今後さらに加速していくと見られています。

つまり、AIは単なる便利なツールではなく、「業務を支える存在」へと変化してきています。

一方で、企業の現場では

「導入したが活用できていない」「一部の人がしか使えていない」「試しに使ってみたが定着しない」といった声も多く聞かれます。

つまり今は、AIを導入しているかどうかではなく、使いこなせているかどうかで差がつく時代に入っています。

この差は今後、業務効率や人材の生産性といった面で、より大きく開いていくことが想定されます。

さらに、こうした差は時間の経過とともに拡大し、「気づいたときには大きな遅れになっている」という状況も現実的に起こり得ます。

(2) これからのAI活用に必要なのは「人と仕組み」

AI活用が進まない原因の多くは、技術そのものではなく“人と運用”にあります。

- ・ 社員が使い方を理解していない
- ・ 社内での利用ルールが整備されていない
- ・ どの業務に使うべきか整理されていない
- ・ 一部の担当者に依存してしまっている

このような状態では、どれだけ優れたツールを導入しても、十分な成果にはつながりません。

だからこそ重要なのは、

「小さく始めて、全体で使える状態を作ること」です。

例えば、

- ・ 日々の業務の中で活用できる場面を洗い出す
- ・ 基本的な使い方や注意点（情報の扱いなど）を共有する
- ・ 特定の人だけでなく、組織全体のIT/AIリテラシーを底上げする
- ・ 無理のない範囲で段階的に活用を広げていく



こうした取り組みの積み重ねが、結果として大きな差につながっていきます。

AI活用の成否は「ツール選定」ではなく、「使い続けられる仕組みづくり」にあると言っても過言ではありません。

現在、そうした第一歩として

IT・AI活用に関する無料相談および社員向け研修（初回支援）を実施しております。

- ・ 何から始めればよいかわからない
- ・ 自社に合った活用方法を整理したい
- ・ 社員のITリテラシーを底上げしたい

といった段階でも問題ありません。まずは現状を整理し無理のない形で取り組みを進めていくことが重要です。お気軽にご相談ください。



AIは「導入するかどうか」の話ではなく、「どう使いこなすか」の時代に入っています。
その一歩を、今年こそ踏み出してみたいはいかがでしょうか。

IT 顧問

よろず相談から業務支援まで
IT専門家が寄り添いご対応いたします。



IT NEWS LETTERへのご要望、ご質問は、it_project@k-taxpartners.co.jp まで。